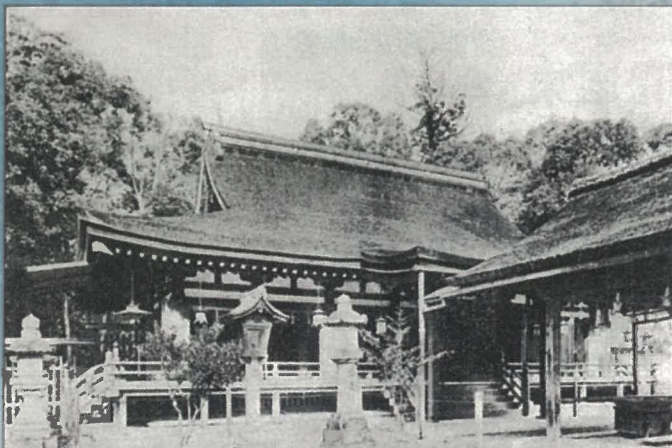


クレス出版

神道研究選集 全6巻

神道とは何か？

神道と神社の存在意義が高まっている昨今、
その研究の手掛かりになるであろう基礎的研究を
復刻する。



近代神道研究の出発点となった
宮地、西田、津田の三氏による著作六冊を収録。

▼ 第4巻「神道史の研究 第二」より

第二部 神道思想の形成と展開

伊勢神道と中世佛教との関係

三四四

後醍醐天皇建武中興の大業の思想的背景の一に伊勢神道の存すること、既に宮地博士によつて詳述にせられたところ、改めていふまでもないが、而もこの神道史の内容を窺ふのに、密教の間に成立した所謂兩部神道の影響の極めて顯著なもののあるのを見るのである。之に就て、會て私は眞禪寺第四代住持政説の絶筆の「神大事」に於ける印信により、伊勢・兩部神道の間に血脈上密接な交渉の存在することを指摘したのである。更にその後、伊勢神道の系統に於ける権臣の巨匠として、この一派の學説を大成した度會兼行が裏け九兩神道の遺教に就ての資料、即ち「天照大神機軸」なる一書に纂するを得たので、之を中心として、伊勢神道に於ける佛教の遺教に關して之を考察を加へ、以て我が國中世佛教並びに神道の一面を明かにしたいと思ふ。

此に紹介しようとする天照大神機軸に就て曾見し得たのに、京都大學圖書館所蔵の源家寄託本神道大藏經文并兩部經本一冊に收むる天照大神機軸と鈴屋太郎氏所蔵の天照大神機軸本一冊とがある。源家本の機軸に神道大意要文とあるのは、慈覺の豐樂原神風和記卷下に所收の神道大意要文であり、兩部説とは此に於いて異なり。又鈴屋本は享保十一年に卒した同家の先祖連盛の手書に係り、奥に「神經」なるその實名の所持者の名が認められる。兩本共に卷末に「東寺長者法務大僧正觀覺聖示之神主兼行在判監驗經顯弘私示」と、之が傳本の記事を止めてゐる。

『神道研究選集』刊行にあたって

現代社会において神道と神社の存在意義は益々高まっている。その学問研究は、近世国学に始まり、近代の宮地直一(1886-1949)によって大成された。宮地は明治四十二年(1909)内務省入省後、二十三歳で國學院大學の前身である皇典講究所で開催された神職講習會において「神祇史」講座を担当する。その講義録が翌年、「皇典講究所國學院大學出版部」から『神祇史』と題して出版された。その内容は、神代史(神話)と歴史を区別し、客觀的立場から神道を語り、仏教・陰陽道との交渉についても深く言及している。つづいて『続神祇史』が刊行された。これらの二書は、宮地最初の著作であり、神道研究の出発点になった。以後、数多くの神道史に関する研究著作を書き続けていったが、これらの原点に『神祇史』『続神祇史』があげられる。

ついで宮地の神道史学の学問を受け継いだのが、元國學院大學教授西田長男(1909-1981)である。西田は神道を把握する方法として、実証的な歴史的事実にこそ、不合理ではあるものの、いわば眞実があるのではないかと指摘し、神道史の特色は、神学にあるのではなく、政治や文学・芸術などを含めた世俗の歴史のなかにあると捉えている。そして、戦前と戦後にわたり数多くの古代から近代へ至る神道史を明らかにした。本選集には、西田の『神道史の研究』『神道史の研究第二』『日本古典の史的研究』の三書を収録した。

近年、「神道」の用語の解釈をめぐる議論が沸騰している。その研究の基礎とされているのが、津田左右吉(1873-1961)の『日本の神道』に収められた「神道の語の種々の意義」である。神道とは何か。その基礎的学問を知る上で、宮地・西田・津田の三氏による六冊の著作は、研究の手掛かりになるだろう。

(國學院大學教授 岡田莊司)

(税別)

SalesID	ISBN	シリーズ名称	同時アクセス1 (本体価)	同時アクセス3 (本体価)
KS00000893	9784877338565	神道研究選集 全6巻セット (分売不可)	¥80,300	¥160,600

収録一覧

第1巻 神祇史

●宮地直一著／明治43年12月／皇典講究所國學院大學出版部

【内容】古代の国民思想と神社の成立、建国の神事、神人の分離、大己貴命及び神裔の神社、征韓の役と神社、韓国干渉に見はれたる神社、儒教と仏教との影響、大化の改新と神祇制度の確立、神仏習合説の起源、八幡神と春日神、平安朝初期の概観、神階と把笏、東国鎮護と外敵降伏の諸神、延喜式に見はれたる神社の観念、神事の紊乱、二十二社の発生、一宮と総社、熊野と伊都伎島、神仏習合説の発達、陰陽道との交渉、当代の神祇に対する観念

第2巻 続神祇史

●宮地直一著／明治45年7月／集成堂

【内容】朝廷の御敬神、日吉と熊野との繁昌、幕府の神社に対する方針、幕府の敬神、祭祀の推移、神人の横暴、承久及び元寇の役に於ける神社、神仏習合説の完成、当代の神社、神体、神饌、調度及び装飾、建築、祭典、行事、神符及び占ト、社領、別宮及び末社、新しき神祇、当代の神職、思想界の変遷

第3巻 神道史の研究

●西田長男著／昭和18年11月／雄山閣

【内容】神道史の理念、古代日本人の善概念、伯家に於ける書紀研究の伝統、両部神道の社会経済史的考察、吉田神道の成立期に就いて、神道の死の概念と仏教との関係、慶長勅版中臣祓と吉田家に於ける神書の開版、吉川神道の道統に就いて、再び吉川神道の道統に就いて、日本魂論の源流としての望楠軒神道、本居学の系譜、本居宣長のものゝ理念のしかた、大教宣布の運動とその神観

第4巻 神道史の研究 第二

●西田長男著／昭和32年12月／理想社

【内容】神社の史的考察（平野祭神新説、宇佐八幡宮成立の周遍、石清水八幡宮の扨立、荷田氏所伝の稻荷社縁起、熊野九十九王子考）、神道思想の形成と展開（造化三神に就て、神聖観念とその分化に連関して、伊勢神道と中世仏教との関係、神皇正統記の本地垂迹思想、三教枝葉花実説の成立、本地垂迹説の終末に就て、唯一神道の食肉裁許状の思想史的意義、三社託宣の制作、武家封建の教学としての吉川神道、千家清主の鈴屋入門）、神道古典の諸問題（天武天皇の古事記・日本書紀の撰録、記序異見、日本書紀の歴史思想、中臣寿詞攷、風土記の撰進、古事記の伝来に就ての一資料、伊勢本古事記の伝来に関する一、二の資料、在伊勢古鈔本と在尾張古鈔本との関係に就て、藤原能信作といふ「大鏡第二神代巻初一」に就て、藤原宣賢の日本書紀抄に就て

第5巻 日本古典の史的研究

●西田長男著／昭和31年1月／理想社

【内容】古事記・日本書紀の歴史的信憑性、古事記・日本書紀・風土記の原資料、神宮・神社の記録、古事記の仏教的文体

第6巻 日本の神道

●津田左右吉著／昭和24年9月／岩波書店

【内容】神道の語の種々の意義、奈良朝までの思想に於いて、平安朝時代の思想に於いて、いはゆる伊勢神道に於いて、正通兼良の思想及びト部家の神道に於いて、江戸時代前半期の神道説に於いて、国学者の思想に於いて、概括と余説、附録（祭政一致の思想について、役行者伝説考、愚管抄及び神皇正統記に於けるシナの史学思想

お問い合わせは紀伊國屋書店デジタル情報営業部まで
Mail : ict_ebook@kinokuniya.co.jp